

# 審議のあらまし

## 決算認定

- 平成22年度第3回町議会定例会において付託された平成21年度各会計歳入歳出決算8件について、去る11月25日、26日の2日間にわたり、町長ほか関係職員の出席を求め慎重に審議した結果、次の意見を付し認定すべきものと会議規則第75条の規定により報告。
  - ◎認定第1号 平成21年度弟子屈町一般会計歳入歳出決算認定について
  - ◎認定第2号 平成21年度弟子屈町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
  - ◎認定第3号 平成21年度弟子屈町老人保健特別会計歳入歳出決算認定について
  - ◎認定第4号 平成21年度弟子屈町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
  - ◎認定第5号 平成21年度弟子屈町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
  - ◎認定第6号 平成21年度弟子屈町温泉事業特別会計歳入歳出決算認定について
  - ◎認定第7号 平成21年度弟子屈町
- 下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- ◎認定第8号 平成21年度弟子屈町水道事業会計決算認定について  
(認定意見)
  - 一般会計
    - ①平成21年度の税および使用料の徴収については、努力の跡が見られるが、一層の収納率の向上に期待する。
    - ②各事業の推進に当たっては、綿密なる計画および評価を行い、効率的な行政を推進すること。
    - その他の会計
      - 各会計の税及び使用料の徴収については、努力の跡が見られるが、なお一層収納率の向上に期待する。  
(老人保健特別会計を除く)

## 条例の制定

- ◎弟子屈町ケーブルテレビ設置条例の制定について  
N T T 東日本―北海道に委託を行い、町内の居住地域全域に光ファイバーによるネットワークを構築し、超高速インターネットの接続サービスを受けられる環境の整備と、

第4回定例会は、12月14日に招集され15日までの2日間の会期で行われた。議事日程により諸般報告(議長)、行政報告(町長)、平成21年度各会計決算認定(8件)、平成22年度各会計補正予算(7件)、条例の制定(2件)、工事請負契約の変更(4件)、人事案件(2件)、一般質問(7人・13問)、意見書案(1件)を審議し、条例1件を総務・経済常任委員会に付託の上、閉会中の継続審査とし、そのほかは、原案通り可決。所管事務調査4件報告済み。

# 第60号 町議会だより

# 第4回定例会

●発行／北海道弟子屈町議会  
●編集／弟子屈町議会広報編集特別委員会

委員長 義人 弘良  
副委員長 康忠 義雄  
委員 岩崎 小川  
副委員 鈴木 小川  
委員 長 義人 弘良  
副委員 康忠 義雄

☎482-2191 FAX482-2696

ケーブルテレビ方式で地上デジタル放送の難視聴地域の解消を図るため、弟子屈町地域情報通信基盤整備事業を実施している。本案は、このケーブルテレビに係る条例の制定。施行は平成23年4月1日から。

◎弟子屈町中小企業基本条例の制定について  
総務・経済常任委員会に付託の上、閉会中の継続審査とした。

## 契約変更

◎弟子屈中学校校舎改築建設工事  
支持基盤確保に伴う掘削土の増量、生徒の安全・安心・快適を確保するための設計の変更、耐久性向上のため外壁材の変更などで、3千258万1千500円の増額。

◎弟子屈中学校屋体改築建設工事  
地場産材使用拡大、暖房器具破損予防対策とトプライトの形状変更などで、334万9千500円の増額。

◎弟子屈中学校改築工事強電設備  
防災拠点施設の発電機設置に対応する校舎や給食センターなどへの屋内配線および電盤などを前倒し工事と、緊急時用と屋体限定としてい

## 補正予算

◎弟子屈中学校改築工事弱電設備  
当初、補助の対象としていた器具類の一部が対象外と判明したため、いったん設計変更で削減し、平成22年度12月補正予算での計上と、防災拠点施設に対応した複合盤の仕様変更および追加などで、1千602万3千円の減額。

た太陽光発電の電気を校舎本体の電力にも利用できるよう配線回路工事や配電盤の設置変更などで、1千14万5000円の増額。

◎一般会計補正予算(第5号)

歳入歳出予算にそれぞれ4億139万4千円を追加し、総額を73億6千401万8千円とする。補正の主なものは、歳入では普通交付税や各種補助金、基金の繰り入れおよび地方債の追加分などを計上。歳出では人事院勧告に伴う人件費の削減分や、国の財源が不透明なため燃料費や光熱費について9割相当しか予算措置していなかったが、その不足分を計上。弟子屈中学校改築関係では、繰越明許費のうち一部で補助、起債の対象外となった部分の工事請負費の追加や新校舎屋体の備品関係予算の計上。

◎国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算にそれぞれ6千884万1千円を追加し、総額を11億8千24万5千円とする。補正の主なものは、歳入では医療費に係る社会保険診療報酬支払基金からの交付金などを、歳出では不足する療養諸費、高額療養費などを計上。

◎介護保険特別会計補正予算(第2号)

今回の補正は歳出予算の組み替えで、予算の総額に変更はない。組み替えの主なものは、介護サービスおよび介護予防サービス費の予算内での増減。

◎後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出予算からそれぞれ318万9千円を減額し、総額を8千588万6千円とする。補正の主なものは、歳入では被保険者の所得の減少による保険料調定額の減額を、歳出では確定した後期高齢者医療広域連合納付金の減額を計上。

◎温泉事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出予算からそれぞれ26万円を減額し、総額を5千606万円とする。内容は、歳出では給与条例の改

正による給与の減額分を、歳入では歳出予算に係る調整分として使用料の減額を計上。

◎下水道事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出予算からそれぞれ65万7千円を減額し、総額を5億4千34万円とする。内容は、給与条例の改正による給与の減額が主なもので、歳入において、一般会計繰入金を減額し前年度繰越金を増額して、歳入歳出予算の調整を行う。

◎水道事業会計補正予算(第2号)

平成22年度弟子屈町水道事業会計補正予算(第2号)は、次に定めるところによる。今回の補正については、「収益的収入及び支出」において、収入では42万円の増額、支出では432万2千円の減額補正をするもので、給与条例改正による減額および人事異動に伴う職員給与費の調整で減額。

## 人事案件

◎人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて  
人権擁護委員法第6条第3項の「市町村長は議会の意見を聞いて、委員を推薦しなければならない」との

規定により同意。

- 氏名／朝日英明  
(昭和15年1月30日生まれ)
- 住所／高栄1丁目7番4号
- 任期／平成23年4月1日から3年間
- 氏名／小泉裕  
(昭和27年6月21日生まれ)
- 住所／川湯温泉2丁目3番21号
- 任期／平成23年4月1日から3年間

### 所管事務調査報告

#### ◎議会運営委員会

- ▼ 期日／平成22年7月15日(木)から9月21日(火)までのうちの3日間
- ▼ 場所／釧路管内町村6議会
- ▼ 事項／決算審査特別委員会の運営状況について
- ▼ 目的／所管事務の調査のため
- ▼ 方法／視察

#### ◎文教厚生常任委員会

- ▼ 期日／平成22年10月5日(火)から10月6日(水)
- ▼ 事項／行政視察
- 平和教育(学習)について／広島市議会
- 県営住宅を活用したグループホームについて／高松市社会福祉法人あゆみの会

込みが前年度より減少しているが、アンケート結果では、本町の環境対策を含めたこの事業に理解いただき利用者が16%伸びていること、31%の観光客が、この取り組みが弟子屈町を訪れるきっかけとなったことなど成果は認められるが、さらに、23年度までの国の支援期間中にバスポートの料金やコースの見直しなど、22年度と内容を変えた実験も必要である。

なお、夏の収支決算については承認する。

④ 経済効果については、詳細に分析されており、効果額についても大きいことが判断できる。一方で23年度で国の事業が終了するが、以後、町費だけで運行するのは厳しい面もあり、より一層の費用削減や民間協力など、いろいろな角度からの検討が必要である。

⑤ 新規事業として実施する冬の1カ月の運行について承認する。昨年商工会で実施した実績からして、冬期観光客の入り込みに寄与するものと判断できる。

⑥ 環境面では、引き続きバイオ燃料を使用することはもちろんのこと、実施しているカーボンオフセットについても内容の周知が不足しており、この事業が環境保全を図りな

● 情報学習(文化教育)について／倉敷市ライフパーク倉敷

- ▼ 目的／所管事務の調査のため
- ▼ 方法／視察
- ▼ 結果
- 平和教育(学習)について／時の経過とともに、平和教育に対して大人にも無関心層が増加している。各種事業を通して「被爆体験」の継承を最重要課題として位置づけている。

● 県営住宅を活用したグループホームについて／県営住宅入居者で組織する自治会との協議が課題であったが、グループホームに反対する自治会との度重なる協議の中で、自治会をまとめてグループホームの受け入れの先頭になって対応してくれた自治会長の力が大きかった。開設にあたり、知的障害者をサポートする職員を配置された。今では、グループホーム入居者も清掃や自治会活動にも積極的に参画しており、良い形で運営ができていく。

● 情報学習(文化教育)について／倉敷教育ネットは、倉敷市情報学習センター(倉敷市ライフパーク倉敷)を中心に、学校・幼稚園・社会教育施設・行政広報などとネットワークを構築し、幅広い情報提供と、

から実施していることの周知をすべきである。

### 意見書

- ◎ 大幅増員と夜勤改善で安全安心の医療・介護を求める意見書について
  - ① ILO看護職員条例に基づき、看護師など夜勤交代制労働者の労働時間を1日8時間、週32時間以内、勤務間隔を12時間以上とすること。
  - ② 医療、社会保障予算を先進国(OECD)並みに増やし、医師・看護師・介護職員などを大幅に増やすこと。
  - ③ 国民(患者・利用者)の負担を減らし、安全・安心に医療・介護を実現すること。
- 以上、地方自治法第99条の規定により、衆参両院議長、内閣総理大臣な

## 平成22年度一般会計補正予算総括質疑

### 弟子屈中学校の建設に係る町の負担増について

**問** 弟子屈中学校の建設に係る町の持ち出しは、当初3億8千900万円程度だったが、今回の補正で、予算が組み換えられ、負担増になる金額はいくらか。

**答** 設計変更に伴い、事業費として3千816万6千円が増額となる。



建設の進む弟子屈中学校

管理運営を行っている。また、このネットを利用し、学校に防犯カメラを設置し、安全対策を実施するほか、災害時の避難場所となる学校と災害対策本部との情報交換機能も備えられていた。

#### ◎総務経済常任委員会

- ▼ 日時／平成22年11月12日(金) 10時
- ▼ 場所／役場庁舎3階議員控室および現地
- ▼ 事項
- ① 町債務状況の推移について
- ② 地方公共団体の財政の健全化に関する法律に係る健全化判断比率について
- ③ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律に係る資金不足比率について
- ④ 温泉事業特別会計・下水道事業特別会計・水道事業会計毎の、繰入状況について
- ⑤ 下水道事業受益者負担金の未納状況と対策について
- ⑥ 下水道使用料の未納状況と対策について
- ⑦ かんがい排水事業の現状と今後の計画について
- ⑧ 弟子屈中学校改築工事の進捗(しんちよく)状況について
- ▼ 目的／所管事務の調査のため

らびに、関係大臣に提出する。

### 議員研修会

◎ 全道町村議会議長会主催議員研修会  
釧路地方町村議会議員研修会が、平成22年10月22日、23日の2日間にわたり川湯温泉で行われた。

1日目は、第一部に釧路市立総合病院救命救急センター長・其田一医師による「道等ドクターヘリ運行一年を振り返って」、第二部に釧路ネット・ワークサロン代表・日置真世氏による「これからの地域づくりの可能性」生活当事者が新しい公共を創る」と題しての講演、2日目に北海道長村議事事務局の勢旗了二事務局長による「議会改革と議会の諸相」と題しての講演が行われた。

#### ▼結果

- ①～⑦について、説明を受けた了解した。
- ⑧について、現地での説明を受けた了解した。

#### ◎摩周湖環境対策調査特別委員会

- ▼ 日時／平成22年12月6日(月) 10時
- ▼ 場所／役場庁舎3階議員控室
- ▼ 会議事件／平成22年度摩周・屈斜路環境にやさしい観光交通実証運行について
- ▼ 結果
- ① 弟子屈町地域公共交通総合連携計画／詳細に報告のあった弟子屈町地域公共交通総合連携計画について、国との関わりや法定協議会の役割など事業の流れについて承認した。
- ② 事業の目的が環境にやさしい交通体系の構築であり、落ち込みが著しい観光客の町内での2次交通の充実・確保が重要であると認識する。また、観光客の利用促進が地域住民の足の確保につながるよう事業展開をすべきである。
- ③ 22年度の夏の運行結果については承認した。町内への観光客の入り

### 人工透析について

**問** 障害者自立支援法に基づく更生医療により人工透析を受けている場合、病院に担当医がいなくなると、患者負担が増加することについて、その対応に奔走しているようであるが、結果はどうか。

**答** 厚生病院の人工透析に関して、は、道の更生医療施設から外されたということ、事故負担金の増えた額は町が負担することとした。今後の再指定については、道に働きかけをし、厚生病院から申請の出し直しにより、道の審議会で認可になるよう取り進めている。

### 道の駅の整備について

**問** 平成23年7月にオープン予定の道の駅について、11月までには内容をはっきりすると答弁されており、今議会までには組織など具体的な内容が出てくると思っただけで、説明願いたい。

**答** 11月の議会全員協議会で中間とりまとめの説明をした際、道の駅の運営体制の指摘をいただき、町民検討委員会も含めて検討中



7月のオープンを目指す新しい道の駅

### 観光行事について

**問** 観光振興についてなかなか成果が上がらない状況であるが、昔は「にゅうよくマラソン」や「摩周樹氷まつり」など行事がたくさん行われていた。

最近では少なくなっていると思うが、これに対する町の考え方は。

**答** 団体客の減少も含め、観光客の落ち込みにより、イベントに人が集まらない状況で、各種イベントが中止になってきた背景もある。

やはり一人でも多くの宿泊客を増やすことが、イベントの復活にもつながるといことから、宿泊支援事業も含め取り組んでいる。  
イベントの復活については、観光協会やえこまち推進協議会とも議論しながら進めたい。

### 全国学力・学習状況調査の公表について

**問** 12月11日の北海道新聞で、学力テストの結果が全国、全道平均を下回っているということで釧路市が発表をしたが、弟子屈町は発表する気があるか。  
弟子屈町全体として、どのぐらいの位置にあるのか。

**答** 個別の結果については、町内に少人数の学校もあり、個人の結果になってしまいうことも危惧されるため、現時点では公表を考えないが、全体のことは、各学校長を通じてお知らせしているほか、従来から議会にも公表させていただいている。



### 年金支給に達しない人たちの対策について

**問** 雇用対策に配慮したい

**答** 本年も残すところ数日となり、現在の経済状態は健康で働きたくても職がなく、バイトの方々も働く日数が減少しているのが本町の実態である。その上、働く職場・職業の関係で、年金法に定められた日数が数年不足し、年金支給が受けられない方々がおられる。前の議会でも、私も私が無年金者の数を尋ねても、答えは社会保険庁ではその数は分からないし、本町としてもその人数の確認はしていないと答弁している。町長も町民一族で良い時悪い時もお互いに支え合うと提唱している。年金をもらえない方々の実態を確認の上、町として何ができるか考える

**答** 副町長答弁  
9月末現在、65歳以上の住民が約1537人のうち、無収入推定者が約150人となり、このうち生活保護など公的扶助を受給されている方を考慮すると、おおよそ50人の方が無収入・無年金者と想定される。今後、年金を受給していない方で、働く意欲のある方には、緊急雇用対策事業応募用紙に年金受給の有無の欄を設け、雇用などについても配慮していきたい。

### 教育行政について

**問** 子どもたちの教育環境を第一に考える

**答** 本町の小学校の未来をどのようか考えているか、中学の生徒の現状と今後の見通し、本町の道立高校の進学率、就職率はどうかについて伺う。また、管内の高校の現状と本町の高校の実態との格差を教育長はどうとらえているか伺う。特に小学校においては、全校児童が

少数に減少したとき、児童のためを考え具体的に対策を講ずるべきである。教育長の答弁を求める。

**答** 教育長答弁  
平成22年度町内小学生は407人が5年後376人に、中学生は221人が191人に減少すると予

## 一般質問



坪井 嗣雄 議員 一般質問

### 下水道事業について

**問** 当初計画の事業で推進する

**答** 本町の下水道終末処理場は、川湯市街の汚水を本町まで管で結び一括処理の計画であったが、川湯弟子屈間の下水管施設はあまりにも経費がかかるので、その計画は5年前に中止し、川湯美留和地区は別の制度で処理をする計画を立てることになった。この地区の汚水をどのように処理し、どの補助制度に乗せるか近年中に決定しなければならぬことになっているが、制度補助の内容と内容計画年次、およびおおよその施設経費などを示してもらいたい。関係地域の人たちがどのような準備をしいか、1日も早く知

**問** 本町の下水道終末処理場は、川湯市街の汚水を本町まで管で結び一括処理の計画であったが、川湯弟子屈間の下水管施設はあまりにも経費がかかるので、その計画は5年前に中止し、川湯美留和地区は別の制度で処理をする計画を立てることになった。この地区の汚水をどのように処理し、どの補助制度に乗せるか近年中に決定しなければならぬことになっているが、制度補助の内容と内容計画年次、およびおおよその施設経費などを示してもらいたい。関係地域の人たちがどのような準備をしいか、1日も早く知

**答** 町長答弁  
検討の結果、当初計画の川湯温泉・川湯駅前・美留和市街地区の汚水を弟子屈終末処理場で処理する場合の概算事業費は32億円で、川湯温泉地区に処理場を設けた場合は34億円、また合併浄化槽で処理する場合は30億円になる。各処理方法事業費に大差はなく、維持管理費の縮減ができる当初計画で事業を進めたいと考えている。なお、事業には10年程度の期間が必要。

想している。このような状況下において、小規模校のある地域からは統廃合を心配する声も寄せられている。教育委員会としては、子どもたちの教育環境を第一に考え、地域の意見を十分に尊重しながら将来の学校の在り方を検討したいと考えている。

また、弟子屈高校の平成21年度末

の進学率は約61%で、進学希望者として就職希望者別の決定率は100%となっている。弟子屈高校の熱心な進路指導は、管内でも高く評価されており、今後においても、弟子屈高校が現状のまま存続するよう、多くの町民の方々ははじめ関係機関と一丸となって取り組んでいきたい。



鈴木 康弘 議員 一般質問

### 『北海道縄文のまち連絡会』に加盟された意義と本町の取り組みについて

**問** 『北海道縄文のまち連絡会』に加盟された意義と本町の取り組みについて

**答** 本年3月定例議会で提言させていただいた『北海道縄文のまち連絡会』への加盟をされたことについて、理事者の判断を高く評価する。10月の設立総会には9市8町の首長が参加し、連絡会を強力に推進している北海道庁荒川知事室長から、来年度

には30市町村の参加が見込まれており、聞いており、単一市町村ではできなかった『学ぶ観光事業』を道内各市町村と連携し、活用できるものと期待する。本町は『道の駅』が7月にオープンするにあたり、広い展示スペースがあり、本町に保存されている縄文土



器、歴史的な生活用具などの文化財を展示し、訪れるお客さまに弟子屈町の歴史と北海道の古き良き時代に触れていただくことが必要と考える。カヌー発着場も釧路川改修工事に伴い設置されると聞いているが『道の駅』を本町の観光拠点にする計画の骨子として『見る・体験する・学ぶ』という連続性のある事業案を策定して

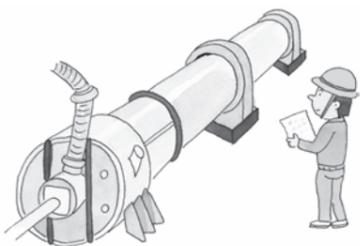


岩崎 義人 議員  
一般質問

はどうかと考えるが、所見を伺う。

**答** 教育長答弁

弟子屈町内には約50カ所の遺跡があり、出土された土器なども多数保管されており、関係者と協議をしながら検討する。『北海道縄文のまち連絡会』とは連携を強め、まちづくりに生かしていきたいと考える。



**問** 下水道整備の進捗状況と今後の整備計画を伺う

3地区については一括方式で検討する

**問** 平成6年から順次行われてきた下水道整備計画の進捗(しんちよく)状況を伺う。また、川湯温泉地区、川湯駅前地区、さらに美留和地区の整備計画の取り組みを伺う。

**答** 町長答弁

弟子屈地区の整備も平成24年度にはおおむね終了する見込みである。その後、川湯地区までの下水道整備を目指す。方法としては、各家庭での合併浄化槽整備、川湯地区単独処理施設、弟子屈との一括方式と、3通りが考え

31・4%、北海道学校給食会からは1千166万円で36・4%。総額で3千201万円。

地元商店街から食材の購入については、今後一層の努力もし、知恵を出して、何品目かを増やす方向で進める。

**問** 地域経済と社会を破壊するTPP問題  
**答** 約62億円の損失

**問** 原則として例外品目を認めず関税を撤廃し、100%の自由貿易化を目指すTPP(環太平洋経済連携協定)に、日本として参加する方向で進行している。参加されたら地域経済と社会は破壊されるということで、全国規模で参加反対の運動が発展している。農業・漁業・林業だけでなく関連する産業も大きい影響を受け、環境に負荷をかける結果になるので、

農業が生み出す国土・環境保全の役割を持つている関連性を大切にしながら、政府が「新たな食料・農業・農林基本計画」で示した10年後には、わが国の食料自給率を50%までに引き上げる目標達成に向け、農業予算をしっかりと確保するために関係機関に働きかける。

①町長としてTPP交渉参加反対の世論形成のために積極的役割を担う。  
②当面50%の食料自給率を目指すこと。  
以上2点について伺う。

**答** 町長答弁

協定が締結され、関税が例外なく撤廃された場合、本町の農業における損失は約62億円で、地域社会の崩壊につながる重大問題である。世論形成のために道や町村会、生産者、消費者など関係団体と一体となって政府に働きかける。



られる。合併浄化槽の場合、地域の特殊性から高度処理型の浄化槽となり、5人家族用で1基240万円と高額で国の補助も40万円弱と少なく、さらに維持管理費が毎年個人にかかる。川湯地区単独方式の場合、地域の環境保全のため高度処理設備で3億円、道路整備・敷地造成に2億5千万円、駅前と硫黄山の汚水整備に2億5千万円、処理場建設に14億円、川湯温泉地区の下水道管整備費用に12億円の、計34億



小川 義雄 議員  
一般質問

**問** 給食センターでの地元商店街から購入推進について

今まで以上に地元からの購入に向けて知恵を出す

**問** 1年間に購入する食材の町内外業者別の主な商品名と金額、比率の状況と地元商店街からの購入推進対策について伺う。

**答** 教育長答弁

学校給食センターに係る食材の購入状況は21年度実績で、町内商店8社からは1千300万円で32・2%、町外6社からは1千5万円で



館 忠良 議員  
一般質問



**問** 美羅尾スキー場の再開の見通しと対策  
**答** 再開に向けて現実的ではない

**問** 美羅尾スキー場が閉鎖され、再開を待つ町民の声が多い。①スキー場再開に向けて所有者との折衝はどのような経過となっているか。  
②再開の見通しがつかない場合、町として所有権の譲渡、賃借などを含めた町の再開構想はないものか。  
③閉鎖がもたらす環境の美観を損ねることが予想されるが、所有者との対応をどのように進める考えか。

渡を図りながら、人工降雪機やリフトの増設がなされ、道東の冬期スポーツと観光の一翼を担ってきた。しかし、道央や近隣に大型スキー場の開設とスキー人口の減少、設備投資の問題もあり、平成20年から閉鎖となった。所有者(緑風観光)では、町内で行う3事業一体化の売却先を探しているが、現実的になっていない。町として、売却先の情報提供なども含めて、1日でも早い再開に向け努力している。町として譲渡や賃借については、財政的なことから難しい。閉鎖によるスキー場の美観を損ねる問題については、所有者に伝えていく。いよいよの場合、国有地を管理する森林管理署とも連携を図りながら対処したい。

**答** 町長答弁

美羅尾スキー場は、昭和24年に開設して以来、町民はもとより、釧路管内や道東方面からのスキーヤーに親しまれてきた。経過の中で民間譲

### 問 家畜ふん尿臭気対策について 答 地域課題として臭気削減に取り組んでいく

**問** 『家畜ふん尿排せつ物』の処理は、酪農家の経営努力や関係機関の補助、行政指導などにより成果を上げてきたことを評価しつつも、観光地という側面からふん尿臭軽減を求める声は大きい。環境と調和した減臭対策が早期に求められるが、行政としての対応をどのように考えるか方針を伺う。

**答** 町長答弁

家畜ふん尿は適正に管理することが法律で義務付けられると同時に、堆肥(たいひ)化などの利用促進を図ることとなっている。近年の経営規模拡大に伴って、ふん尿を液状化し効率的処理をするスラリーシステムが導入されている。悪臭はスラ

リーの散布時期が集中する春季、秋季に集中し、広範囲に悪臭を発生させている。関連組織や個々の酪農家で自主的に、臭気削減資材や抑制散布機の導入など試行錯誤をしている実態である。今年の2月に「家畜排せつ物利活用適正化処理講習会」で全道

の問題として取り上げられた。本町においても、市街地や観光地周辺で臭気抑制の要望が出されている。対策について、行政・農協・農業改良普及センターなどが一体となって対策を立てることとし「弟子屈町家畜ふん尿臭気対策協議会」が組織された。これからは、対策協議会を通して各酪農家が自らの問題として自覚するとともに、住民を含めた地域問題として臭気削減に取り組んでいきたい。

### 問 特定外来生物「ウチダザリガニ」対策について 答 環境省や学術機関の助言を得て実施

**問** 水辺の環境や生物多様性を守るために、特定外来生物ウチダザリガニの継続的駆除が話題となっている。阿寒湖・釧路湿原・春採湖などでは、民間ボランティアなどによる駆除が進められている。本町でも屈斜路

湖を水源とする釧路川水系での対策が必要であると思うが、所見を伺う。

**答** 副町長答弁

ウチダザリガニは、北米大陸原産で淡水ザリガニの一種である。日本



象を拡大すべきと考える。

**答** 副町長答弁

町民宿泊促進支援事業については、町内の町内での観光宿泊施設および観光資源の活用機会の促進支援を目的として、本年5月24日からスタートした。

町民が、登録された宿泊施設(32施設)に利用券を利用して宿泊した場合、当該宿泊に係る料金の一部、1人につき1泊2千円を補助するものである。5月の事業開始以来、12月8日ま

での利用券の申請数は1千39件となっており、今後も忘新年会での利用が見込まれる。

次に、町税の収納率に反映されているかということであるが、その効果がすぐに税収に反映されるのは難しく、事業を継続実施することで、観光地として町外の人にも魅力ある地域として認識され、宿泊客の増加につながるものと認識している。

本事業の来年度の予定であるが、対象者について一部見直しも検討しながら実施していきたい。



池上 清子 議員  
一般質問

### 問 ふるさと会の活用展望について 答 さらなる協力関係を築いていく

**問** 2カ所にあるふるさと会の活動の推移、今後の展望など、考えを伺う。

**答** 町長答弁

ふるさと会には、札幌弟子屈会と、東京の弟子屈ふる里会があり、

への移入は1926年、食用とするため持ち込まれたのが始まりとされている。1930年に雄248匹・雌228匹が摩周湖に放流され、生息したといわれる。以後北海道の一部・滋賀県福島県などの冷涼な河川・湖沼で生息を確立。生息地は拡大の傾向にあって、今年4月、千葉県利根川水系で確認されたことが新聞報道されている。2006年、日本ザリガニの生息区と競合することから、外来生物法に基づ



山田 博 議員  
一般質問

### 問 宿泊支援事業について 答 提唱範囲の拡大により次年度も継続

**問** 本事業がスタートして、6カ月余りが経過した。この時点で検証してみる必要があると考えます。①6カ月間の利用実績はどうか。②町税の収納率にどう反映されている

るか。③来年度も実施する考えか。

実施するのであれば、事業の対象者を住民登録がされていなくても、町内に住居を所有している者まで対



く特定外来生物に指定された。特に、天然記念物のヒブナが生息する釧路市の春採湖では、ヒブナの産卵床が荒らされ被害を受けたことから、平成18・19年度に生息調査をし、20年からは市民ボランティアによる捕獲事業がなされた。本町でも屈斜路湖に相当数の生息が確認されている。屈斜路湖での調査はその規模から困難であるが、身近な河川調査については、環境省や学術機関の助言を得て可能と考える。

### 問 弟子屈の観光振興について 答 訪れる人に感動を与えるよう取り組んでいく

札幌弟子屈会は昭和33年、弟子屈ふる里会は平成元年に第1回の会合が開かれ、以来、ふるさと弟子屈を遠くから見守ってきていただいている。総会には毎年出席させていただき、情報交換や、皆さまのふるさとへの思いなどを伺ってきており、今年度は道の駅の改築や弟子屈中学校建設に関連し、ふるさと納税のお願いなどをしてきている。弟子屈ふる里会では今年から、総会前に時間を取り、町活性化のための意見交換会を開催し、農業や観

光の振興策にご意見をいただいたり、首都圏での町のイベントへ積極的参加提案をいただいている。現在の会員数は、札幌弟子屈会114人、弟子屈ふる里会は200人ほどだが、高齢化で総会出席率も減少傾向にある。会員募集や総会などのお知らせ、移住や企業誘致に関する提案など、また第5次弟子屈町総合計画策定に関するアンケート調査にも会員の皆さまの協力をお願いし、さらなる協力関係を築いていく所存であり、ご理解願いたい。

**問**

地域にはたくさん観光資源があり、人が旅をする目的も多くあるが、訪れる人が思わず感動するものの有無が町の観光には大切になる。何との出会いであれ、ここを訪れた人々の心の奥深くに残るようなものが多ければ多いほど、人の訪れも多くなると思う。豊かな自然、森、林、温泉など、地域の人にとって

は、今後の高齢化社会にも必要とされる大きな要素になると思うが、所見を伺う。

**答** 町長答弁

最近の観光は、地域の生きた暮らしに触れたいというものに変わってきており、まちづくりと地域住民の観光産業への取り組みが重要である。いろいろな試み、町の観光資源が最大限に活用されるような試みが、現在多くなっている。さらに多くの自然・文化遺産との連携に取り組み訪れる人々にいろいろな面での感動を与えられるよう取り組んでいきたい。